

審査TFにおける取組の報告

令和7年12月10日

I. 「BIM図面審査」の実施に向けた環境整備の取組

1. 「BIM図面審査」の開始に向けた成果（案）
2. 2025年度 作業フロー（案）
3. 「BIM図面審査」の試行・検証②
4. ガイドライン（別添含む）（初版）公開に向けて
5. 申請・審査マニュアル（初版）公開に向けて
6. （仮称）入出力基準解説書（初版）公開に向けて
7. ICBA確認申請用CDEマニュアル（素案）の作成
8. サンプルモデル・テンプレートの改良
9. 設計者向けのBIM図面審査説明資料

1. 「BIM図面審査」の開始に向けた成果（案）

■ ガイドライン・マニュアル、各種ツールの位置づけ

国交省

○建築計画の申請・審査 【建築基準法第6条関係】

○確認申請書の様式 【規則第1条の3関係】

○確認審査等に関する指針 【H19告示835号】

●必要に応じ規則を改正
BIM図面審査で必要となる図書等の位置づけ等

●必要に応じ
告示を改正

BIM図面審査で、一定の要件
を満たす場合は、一部「整合性確認」が省略できること等の追記

●課長通知
(技術的助言)

➢ 改正主旨、ポイント
➢ ガイドライン等の位
置づけ、説明

(技術的助言でこの関係性を記述)

建築確認におけるBIM図面審査ガイドライン[イ-1]

➢ BIM図面審査の概要、入出力基準及び申告書、審査環境、申請・審査の手順、
留意事項を示したもの

別紙
(実施ツール)

出入力基準

・BIM図面審査で用いる、BIMデータの作成等に関する基準

申告書

・BIM図面審査で用いる、入出力基準に従い図書の作成等を行ったことについて、設計者が申告を行う書類

確認申請図書表現標準

・BIM由来のPDF図書について使用を推奨する図表現の標準

(参考テンプレートの位置づけをガイドラインに記述)

支援ツール (部会・関係団体等が公開)

参考テンプレート

サンプルモデル等

ソフトウェアごとの用語読み替え表

設計者向けのBIM図面審査説明資料

(申請・審査の考え方をガイドラインから引用)

申請・審査マニュアル

・申請・審査の手順等を示したもの

ICBA確認申請用CDEに関する手順書

(仮称) 入出力基準解説書

・入出力基準を解説したもの

2. 2025年度 作業フロー（案）

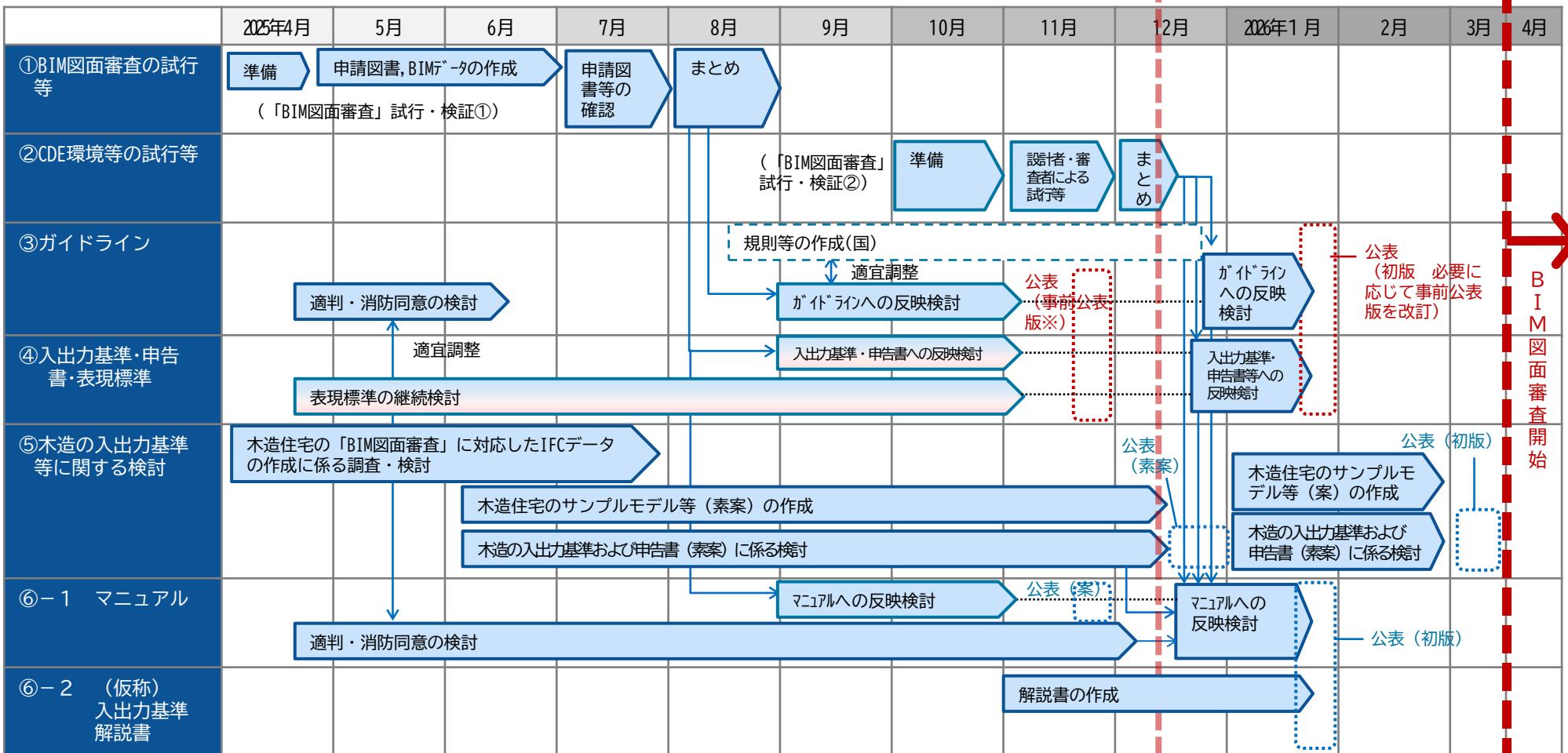
▼:環境整備部会

■ガイドライン・マニュアル関連

▼ 10/29

▼ 12/10

▼ 3月初旬



※表現標準については、12月10日時点で事前公表版の公開に向け準備中

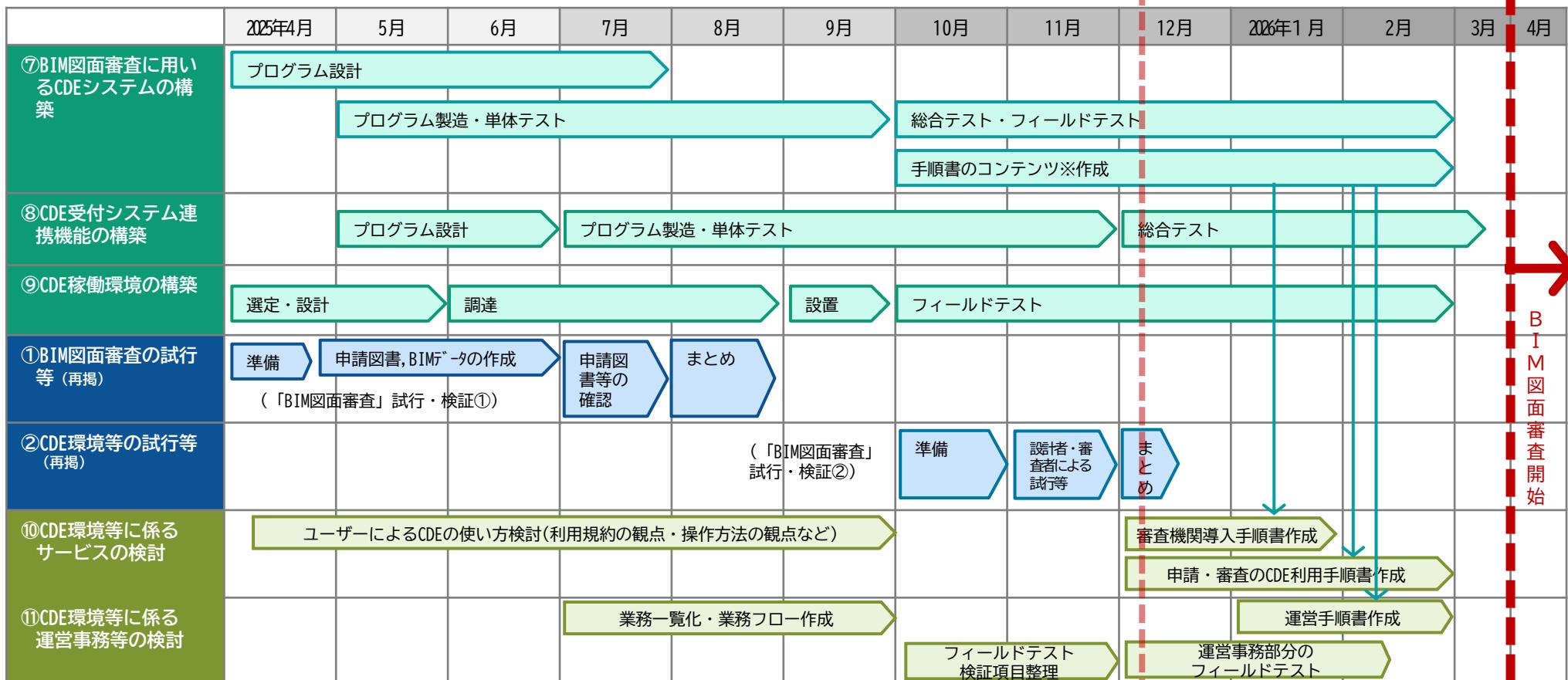


年度の成果の
とりまとめ・
報告書作成

2. 2025年度 作業フロー（案）

▼:環境整備部会

■ ICBA確認申請用CDE関連



※コンテンツは以下の3種

①一般ユーザー用、②サイト管理者用、③CDEシステム管理・運営者用

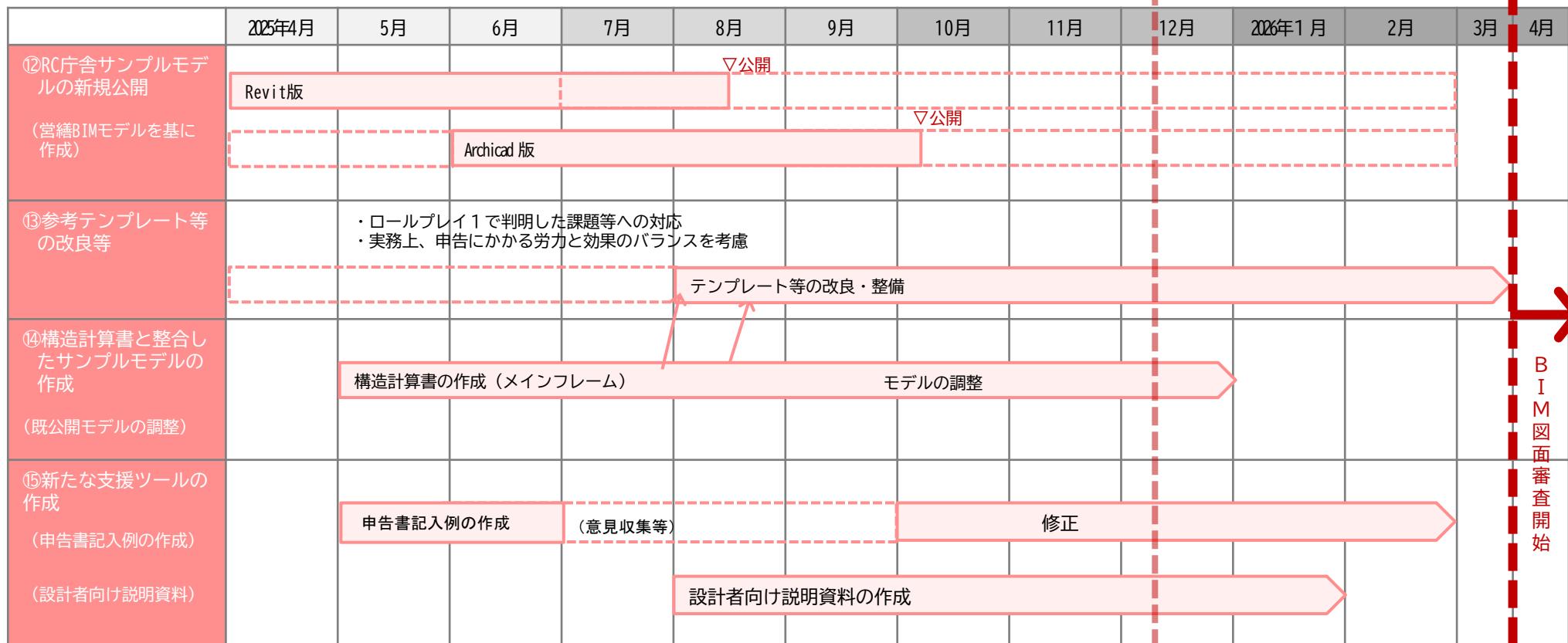
年度の成果のとりまとめ・報告書作成



2. 2025年度 作業フロー（案）

▼:環境整備部会

■支援ツール関連



年度の成果の
とりまとめ
報告書作成



2. 2025年度 作業フロー（案）

▼:環境整備部会

■説明会、普及関連

	2025年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	▼ 10/29	▼ 12/10	▼ 3月初旬	
制度説明会 (国土交通省)				● 7/10制度説明会								
⑯新たな支援ツールの作成（再掲） (申告書記入例の作成等)				申告書記入例等の作成			修正					
⑰ 設計者向けの説明会の実施支援 (申告にかかる労力と効果のバランスを考慮)					設計者への説明	動画等準備		設計者向け講習（オンデマンド）				
⑯ ICBA確認申請用CDEの周知・普及		●5/22説明会			●8/29説明会			●説明会（11月中、予定）				
								BIM図面審査WEBポータル公開（予定）				



3. 「BIM図面審査」の試行・検証②

■目的

- 「BIM図面審査」の試行・検証②の実施目的は下記の通り。試行・検証の結果を踏まえ、必要に応じてガイドライン等の加筆・修正を行う。

目的1. 入出力基準に従い作成した確認申請図書において、設計者は整合性確認の省略項目およびその範囲を特定し、申告できるか。また、申告した部分は、整合性確認は整合しているか。
【設計者】

目的2. 設計者から提出された設計図書・申告書を用いて、設計者が考える整合性確認の省略箇所を特定でき、それを除外して審査を行うことができるか。
【審査者】

目的3. 検証①の内容に加え、申請から確認済証交付までの手続きが確実に実施できるか。
【設計者】
【審査者】

■概要

- a) 入出力基準に基づくBIMデータの作成
- b) 作成データからの確認申請図面（PDFデータ）・IFCデータの書き出し、入出力基準適合申告書の作成
 - ※「不整合」としてチェックすべき項目を整理した上で実施
 - ※申告する項目に関する説明を実施した場合の効果、申告書の様式などの変更内容に関する検証の実施
- c) ICBA確認申請用CDEを用いた申請・審査の試行・検証（フィールドテスト）
 - ※設計者・審査者に加え、構造・省エネ適合性判定機関、消防本部が参加

→現在実施中

4. ガイドライン（別添含む）（初版）公開に向けて

■建築確認におけるBIM図面審査ガイドライン

- 今後、必要に応じて、試行・検証②を踏まえた加筆・修正を実施する。

■別紙2：BIM図面審査における入出力基準適合申告書

- 今後、入出力基準の見直しの反映するとともに、必要に応じて、試行・検証②を踏まえた加筆・修正を実施する。

■別紙3：BIM図面審査における確認申請図書表現標準

- 今後、以下についての表現方法等を追加する。
 - 床面積求積図及び求積表
 - 採光・換気・排煙等に係る算定表
 - 内装仕上げ表

4. ガイドライン（別添含む）（初版）公開に向けて

■別紙1：入出力基準

対応1 入出力基準の見直し

- ・試行・検証①を通じて明らかになった課題を踏まえ、主に以下の見直しを行う。

1)整合性確認の省略可能な項目に関する申請者と審査者の相互理解を向上させるための構成、文言等の見直し

- a. 新たに大項目（例：敷地関係、基準線関係）を設けて分類
- b. 各基準の細目のうち「寸法」は、新たに基準を設け一元化
- c. 各基準の細目のうち「位置」と「形状」は、「位置・形状」に一元化
- d. 「意-005 軒・ひさし」「意-009 各階の床・軒・ひさし・屋根（天井のない場合は、屋根）」を一元化
- e. 床面積に係る「空間オブジェクト」の用語を「領域を示すオブジェクト」に変更
- f. 意匠・設備分野の整合に係る基準の一部を細分化（例：機-001 外壁、間仕切壁、開口部）

2)整合性が確保される理由や原理に応じた文言や基準の見直し

- g. 意匠分野の基準に「各階の天井」を追加
- h. 基準を満たすためのBIMモデル作成の負担が大きい基準を削除（例：意-017・機-008 令第112条第16項に規定する部分）
- i. 意匠・設備分野の整合に係る基準のうち、整合を確保することが難しい基準を削除（例：機-006 各室の天井高さ、機-005 各階の各室の床面積の求積に必要な建築物の各部分の寸法及び算式面積）

※a～iは現時点での案であり、初版公開までに変更がある可能性があります。

●入出力基準の構成、文言等の見直しイメージ

3-1 意匠分野

意匠分野におけるBIMデータの作成の方法に関する基準は、以下の通りである。

○敷地関係

意-001 敷地境界線

<形状情報>

①形状

・敷地境界線の形状は、敷地境界線オブジェクトを用いて入力し、表示する。

②各辺の長さ

・敷地境界線の各辺の長さは、敷地境界線オブジェクトより自動算出し、表記する。

③敷地面積の求積に必要な敷地の各部分の寸法及び算式

・敷地面積は、敷地境界線オブジェクトで囲まれた領域を示すオブジェクトを用いて入力し、表記する。

・敷地面積は、当該領域オブジェクトより自動算出し、それらの合計を自動計算し、表記する。

<属性情報>

④種別・敷地境界線の種別（道路境界線、隣地境界線などの別）は、敷地境界線オブジェクトに属性情報として入力し、表記する。

意-002 地盤面及び平均地盤面

<形状情報>

①地盤面及び平均地盤面からの建築物の各部分の高さ

・地盤面及び平均地盤面の高さは、地盤面及び平均地盤面の基準レベルを設定するオブジェクトを用いて入力し、表示する。

・地盤面又は平均地盤面からの建築物の各部分の高さは、地盤面又は平均地盤面のそぞれぞの基準レベルを基点とし、オブジェクトと連動して各部分の高さを表記する機能又はオブジェクトと連動して距離を表記する機能（寸法線ツール）を用いて自動算出し、表記する。

○基準線関係

意-003 方位

<形状情報>

・方位は、方位オブジェクトを入力する、又はBIMデータに入力した方位の情報に連動する機能を用いて入力し、表示する。

意-004 通り芯

<形状情報>

①形状

・通り芯の形状は、通り芯オブジェクトを用いて入力し、表示する。

②通り芯間の寸法

・通り芯間の寸法は、通り芯オブジェクトと連動して距離を表記する機能（寸法線ツール）を用いて自動算出し、表記する。

<属性情報>

③符号

・通り芯の符号は、通り芯オブジェクトの属性情報を用いて入力し、表記する。

4. ガイドライン（別添含む）（初版）公開に向けて

●入出力基準（初版）の項目のイメージ（赤字：事前公表版から名称・番号の変更が予定されているもの）

部門	意匠	構造	設備
事項	<p>●敷地関係 意-001 敷地境界線 意-002 地盤面及び平均地盤面</p> <p>●基準線関係 意-003 方位 意-004 通り芯 意-005 各階基準線</p> <p>●建築要素 意-006 外壁 意-007 間仕切壁 意-008 各階の床、屋根、軒及びひさし等 意-009 各階の天井 意-010 開口部</p> <p>●領域・空間要素 意-011 各室の用途 意-012 建築面積の求積に必要な建築物の各部分の寸法及び算式 意-013 各室の用途各階の各室の床面積の求積に必要な建築物の各部分の寸法及び算式</p> <p>●防火・避難関係 意-014 防火区画等（令第112条及び令第114条の規定） 意-015 防煙壁による区画（令第126条の2の規定） 意-016 防火設備 意-017 非常用の進入口等 意-018 令第126条第1項に規定する手すり壁、さく又は金網</p>	<p>○意匠図との整合に関する事項</p> <p>○構造分野の事項</p> <p>●基準線関係 共通-001 通り芯 共通-002 各階基準線</p> <p>●建築要素 <基礎> 基礎-001 基礎ぐい 基礎-002 基礎 基礎-003 地盤改良工法</p> <p><鉄筋コンクリート造> RC-001 柱 RC-002 大ばり RC-003 小ばり RC-004 床版(デッキ床含む) RC-005 屋根版 RC-006 耐力壁 RC-007 非耐力壁</p> <p><鉄骨造> S-001 柱 S-002 大ばり S-003 小ばり S-004 鋼板床 S-005 斜材 S-006 鋼板壁</p>	<p>○意匠図との整合に関する事項</p> <p>○機械設備分野の事項</p> <p>●基準線関係 機-001 敷地境界線</p> <p>●基準線関係 機-002 通り芯</p> <p>●建築要素 機-003 外壁 機-004 間仕切壁 機-005 各階の床、屋根、軒及びひさし等</p> <p>機-006 開口部</p> <p>●領域・空間要素 機-007 各室の用途</p> <p>●防火・避難関係 機-008 防火区画等（令第112条及び令第114条の規定） 機-009 防煙壁による区画（令第126条の2の規定）</p> <p>●その他 機-010 給気機及び排気機 機-011 排煙設備</p> <p>○電気設備分野の事項</p> <p>●基準線関係 電-001 敷地境界線</p> <p>●基準線関係 電-002 通り芯</p> <p>●建築要素 電-003 外壁 電-004 間仕切壁 電-005 各階の床、屋根、軒及びひさし等</p> <p>電-006 開口部</p> <p>●領域・空間要素 電-007 各室の用途</p> <p>●防火・避難関係 電-008 防火区画等（令第112条及び令第114条の規定） 電-010 非常用の照明装置</p>

4. ガイドライン（別添含む）（初版）公開に向けて

■別紙1：入出力基準

対応2 木造の入出力基準（素案）の公表

- 年内を目途に、木造（軸組工法・枠組工法）の入出力基準の素案を公開する。
- 2026年3月には同：初版を公開する予定である。

番号	入出力基準に従い作成した明示すべき事項等
	細目
基礎-003	地盤改良工法
	①位置及び形状 ②符号 ③構造方法 ④材料の種別
W共通-001	土台
	①位置及び形状 ②符号 ③材料の種別
W共通-002	床版
	①位置及び形状 ②符号 ③材料の種別 ④開口部の位置及び形状
W共通-003	耐力壁（面材）
	①位置及び形状 ②符号 ③材料の種別
W共通-004	耐力壁（筋かい）
	①位置及び形状 ②符号 ③材料の種別
W共通-005	準耐力壁（面材）
	①位置及び形状 ②符号 ③材料の種別 ④開口部の位置及び形状
W共通-006	アンカーボルト
	①位置及び形状 ②符号 ③材料の種別
W共通-007	金物
	①位置及び形状 ②符号 ③材料の種別
W共通-008	屋根版
	①位置及び形状 ②符号 ③材料の種別 ④開口部の位置及び形状

番号	入出力基準に従い作成した明示すべき事項等
	細目
W軸組-001	柱
	①位置及び形状 ②符号 ③材料の種別 ④柱の種別
W軸組-002	大ばり
	①位置及び形状 ②符号 ③材料の種別 ④接合金物の構造
W軸組-003	小ばり
	①位置及び形状 ②符号 ③材料の種別
W軸組-004	火打ち材
	①位置及び形状 ②符号 ③材料の種別
W軸組-005	小屋組
	①位置及び形状 ②符号 ③材料の種別
W枠組-001	床根太
	①位置及び形状 ②符号 ③材料の種別 ④釘の種類
W枠組-002	開口部（まぐさ及びまぐさ受け）
	①位置及び形状 ②符号 ③材料の種別
W枠組-003	小屋組
	①位置及び形状 ②符号 ③材料の種別

W共通-001 土台

<形状情報>

①位置及び形状

・土台の位置（土台の配置）及び形状（土台の断面形状（矩形）、せい及び幅）は、台/梁オブジェクト等を用いて入力し、表示する。

<属性情報>

②符号

・土台の符号は、土台/梁オブジェクト等の属性情報として入力し、表記する。

③材料の種別

・土台の使用材料（木材の材種）は、土台/梁オブジェクト等に属性情報として入力し、表記する。

W共通-002 床版

<形状情報>

①位置及び形状

・床版の位置（床版の有無及び配置）及び形状（床版の形状及び厚さ）は、床オブジェクトを用いて入力し、表示する。

<属性情報>

②符号

・床版の符号は、床オブジェクトの属性情報として入力し、表記する。

③材料の種別

・床版の使用材料（床版の材料種別及び厚さ、釘の種類及び釘打ち間隔）及び倍率は、床オブジェクトに属性情報として入力し、表記する。

<形状情報（床版の開口部）>

④開口部の位置及び形状

・開口部の位置（床開口部の有無及び配置）及び開口部の形状（床開口部の外形）は、床オブジェクトを用いて入力し、表示する。

W共通-003 耐力壁（面材）

<形状情報>

①位置及び形状

・耐力壁（面材）の位置（耐力壁（面材）の配置）、形状（耐力壁（面材）の形状（矩形）、幅、高さ及び厚さ）は、耐力壁/壁オブジェクト等を用いて入力し、表示する。

<属性情報>

②符号

・耐力壁（面材）の符号は、耐力壁/壁オブジェクト等の属性情報として入力し、表記する。

③材料の種別

・耐力壁（面材）の使用材料（耐力壁（面材）の材料種別及び厚さ、釘の種別及び釘打ち間隔）及び壁倍率は、耐力壁/壁オブジェクト等に属性情報として入力し、表記する。

4. ガイドライン（別添含む）（初版）公開に向けて

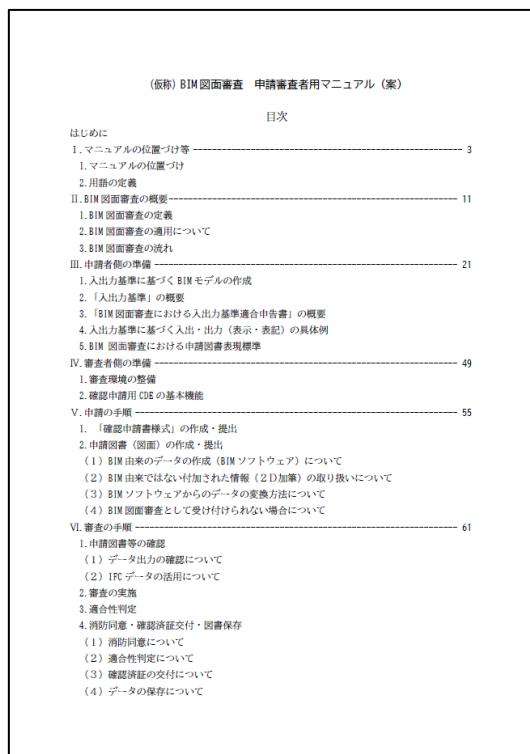
■ (参考) 木造の入出力基準（素案）に基づいたサンプル図面等の作成例



5. 申請・審査マニュアル（初版）公開に向けて

- 「BIM図面審査試行・検証①」の検証結果を踏まえて公表済みのマニュアル（素案）を加筆・修正し、11月に「BIM図面審査 申請・審査マニュアル（案）」として公表した。
- 今後、現在実施している「BIM図面審査試行・検証②」の検証結果を踏まえ、加筆・修正を行う。想定される加筆・修正事項は次のとおりである。

- 1) 審査環境（確認申請用CDE）について
- 2) 構造適判、省エネ適判、消防同意の申請・審査ステップについて
- 3) その他、検証者からの改善提案事項等を精査してマニュアルに反映



申告書第2面以降の様式は図 3-7-2 のとおりである（表側に入出力基準の項目、表頭に図書の名称の場合）、表頭が入出力基準の項目等（明示すべき事項等）、表頭が図書の種類によっており、設計者は入出力基準の項目等に、基準に従って入出力を行ったかどうかについて、表頭の回答ごとに○△□の記号で付ける様式になっている。

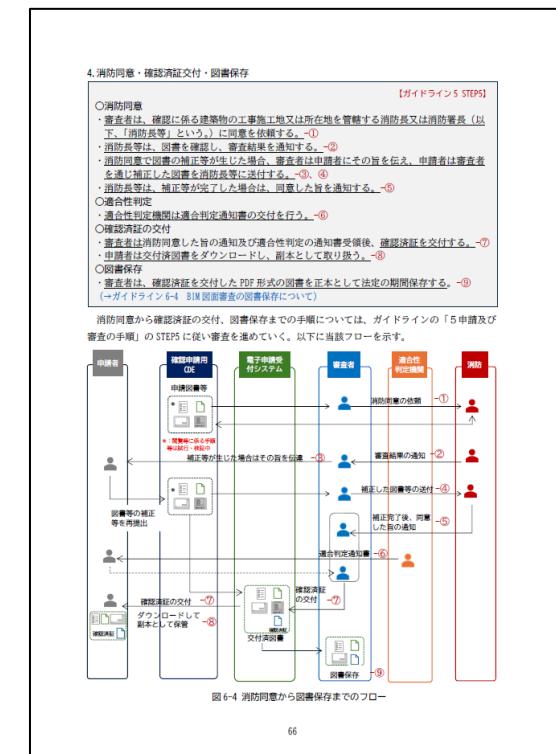
なお、当該申請書の様式は参考式であり、各種認証審査機関等が審査事務に応じて個別に様式を定めることができる。このため、特に第一面以降の様式については各認証審査機関等で異なること（例えば図 3-7-2において、①と②とが逆転する等）もあることから、申請する各認証審査機関等の取扱いを事前に確認しておく必要がある。

○申告書第2面以降

図 3-7-2 申告書第二面以降の様式（図は第二面（審査関係）のもの）

①入出力基準に従って作成した部分
「建築確認における BIM 図面審査ガイドライン 別紙1：入出力基準」で示されている基準の番号、明示すべき事項等、細則と同一のものとしている。入出力基準の項目と一致させる必要があるため、これを改変したり追加したりしてはならない。
たとえば、申請する図書において該当する基準項目がない場合や入出力基準に従っていない項目については、申請する図書を削除（行削除）してもらよい。

②入出力基準に従って作成した回答
原則として申告対象とする図書のみを記載する。
設計図書には、審査者が該当する図書を特定できるよう対象とする当該申請に係る図書の名称と一致させる。



6. (仮称) 入出力基準解説書(初版)公開に向けて

■ (仮称) 入出力基準解説書(初版) のイメージ

意匠-003 通り芯

1. 審査上の位置づけ

- 通り芯は、建築物の位置・柱梁配置・面積算定の全ての基準となる。したがって、必ずオブジェクトとして定義し、図面ごとに描き直してはならない。

2. 基準本文

意-003 通り芯 (最終的には見直し案に置き換え)

- ①形状
 - 通り芯の形状は、通り芯オブジェクトを用いて入力し、表示する。
- ②符号
 - 通り芯の符号は、通り芯オブジェクトの属性情報を用いて入力し、表記する。
- ③通り芯間の寸法
 - 通り芯間の寸法は、オブジェクトと連動して距離を表記する機能(寸法線ツール)を用いて自動算出し、表記する。

【整合性省略の内容】

- ①通り芯の線形
- ②通り芯の符号
- ③通り芯間の寸法

3. オブジェクトと入力原則

- 「通り芯オブジェクト」を使用する。
- 符号(番号・記号)は通り芯オブジェクトの属性として入力する。

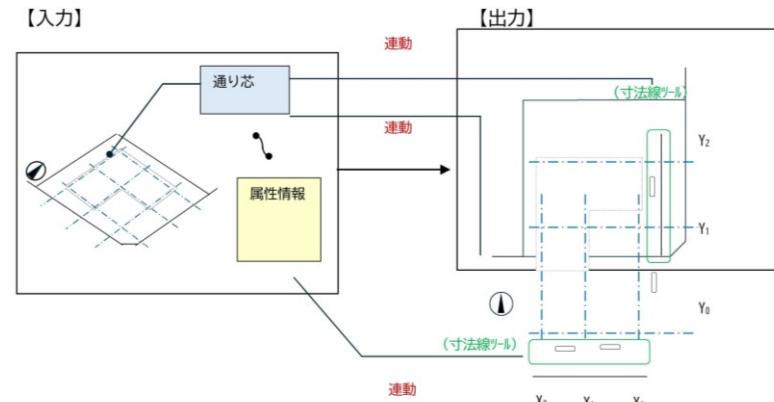
4. 自動算出・自動連動に関する要件

- 通り芯間寸法は、寸法線ツール(オブジェクト連動)により自動算出・自動表記する。
- 通り芯情報は、平面図・断面図・構造図間で共通基準として使用する。

5. 図面出力時の表記方法

- 平面図には必ず通り芯記号と寸法を図示する。
- 断面図・立面図では必要位置に通り芯延長線を表示する。

6. 図解



7. 禁止事項 (理由つき)

禁止操作	理由
図面上で線分として通り芯を描く	他図面で位置が一致せず、整合性確認ができない
寸法値を手入力で記入・修正する	モデル変更に追従せず 計算結果が法的に無効となる
構造図側で通り芯を描き直す	意匠と構造で基準が不一致となり審査指摘が確実に発生

8. 良い例 / 悪い例

良い例	悪い例
通り芯=モデル中心線 → 寸法は自動算出	柱位置に合わせて通り芯を“描く”
符号変更 → 全図面へ自動反映	図面ごとにG→Hへ手作業修正

9. 二次元CAD経験者向け概念補足

- CADでは「通り芯=補助線」。BIMでは「通り芯=すべての部材位置と数値の参照軸」。つまり、通り芯を正しく入力しない限り、以降の建築情報は成立しない。

7. ICBA確認申請用CDEマニュアル（素案）の作成

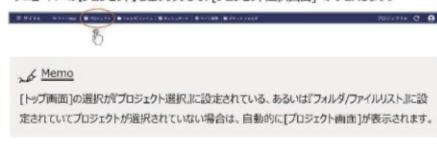
- 確認申請用CDEの全機能の操作を記すベース原稿（2025年11月現在、A4版約1,000ページ）を作成中である。
- 1月～2月にベース原稿の校正を行い、これを基に一般ユーザ用操作マニュアル、サイト管理者用操作マニュアル、システム運営者用操作マニュアルの2026年3月15日の完成を目指す。
- 確認申請用CDEの操作マニュアルの作成作業は、遅延なく順調に進めている。

2 基本操作（簡易マニュアル） CDE マニュアル — 管理者用 — Ver1.00 Rev1.00 2025/6/1

2.1.5 プロジェクト選択するには？

1| プロジェクト選択画面の表示

メニューバーの【プロジェクト】を左クリックして、【プロジェクト選択画面】へアクセスします。

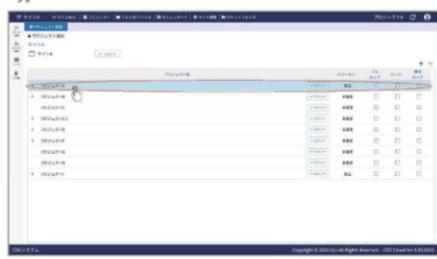


Memo

【トップ画面】の選択が【プロジェクト選択】に設定されている、あるいは【フォルダ/ファイルリスト】に設定されているプロジェクトが選択されていない場合は、自動的に【プロジェクト画面】が表示されます。

2| プロジェクト選択

【プロジェクト選択画面】で作業を行うプロジェクトを左クリックします。選択したプロジェクトは青帯で表示されます。



Memo

- 青帯で選択されているプロジェクトを再度左クリックすると選択が解除されます。
- プロジェクト名の前に【+】が付いているプロジェクトには、アクセス可能なプロジェクトが存在します。
- 【+】を左クリックすると、サブプロジェクトが展開されます。
- プロジェクト表示を上位に戻すと、上部のプロジェクト バンクリストでやりたいプロジェクトを左クリックします。

CDE Cloud Ver1.00 - 2-8 - 一般社団法人 buildingSMART Japan

2 基本操作（簡易マニュアル） CDE マニュアル — 管理者用 — Ver1.00 Rev1.00 2025/6/1

2.1.6 フォルダ/ファイル操作するには？

1| フォルダ/ファイルリスト画面の表示

メニューバーの【フォルダ/ファイル】を左クリックして、【フォルダ/ファイルリスト画面】にアクセスします。

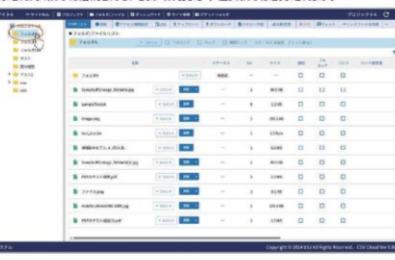


Memo

- 【トップ画面】の選択が【フォルダ/ファイルリスト】に設定されている場合、ログイン後自動的に【フォルダ/ファイルリスト画面】が表示されます。
- プロジェクトが選択されていないと【フォルダ/ファイルリスト画面】にアクセスできません。

2| フォルダ/ファイルの選択

【フォルダ/ファイルリスト画面】の左側ツリーで作業を行うフォルダを左クリックします。選択したフォルダが青帯で表示され、フォルダに格納されているファイルおよび下位フォルダが表示されます。



Memo

- フォルダの選択は、左側ツリーでフォルダを左クリックするか、右側フォルダ/ファイルリストのフォルダを左クリックすることで行えます。
- 左側ツリーのフォルダの前に【▼】の付いているフォルダにはアクセス可能なサブフォルダが存在します。
- フォルダの展開は【▼】を左クリックするか、右側のフォルダ/ファイルリストのフォルダを左ダブルクリックすることで行えます。

CDE Cloud Ver1.00 - 2-9 - 一般社団法人 buildingSMART Japan

8. サンプルモデル・テンプレートの改良

- RC造3,000m²庁舎モデルを追加したほか、申告書の書式や参考テンプレートなどを適宜更新している。
- サンプルモデル（事務所モデル、庁舎モデル）については、意匠、構造、設備を合わせ、11月20日現在で1万件を超えるダウンロードがある。



BLCJ

トップページ トピックス 活動内容 組織概要 組合員ページ アクセス

ホーム / BIM図面審査サンプルモデル

●配付中のファイル一覧

BIMソフトウェア	5造1000m ² 事務所モデル				RC造3000m ² 庁舎モデル		
	サンプルモデル	参考テンプレート	PDF出力例	申告書記入例	サンプルモデル	PDF出力例	申告書記入例
意匠	Revit 2022	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	Archicad	<input type="radio"/>	(Archicad26)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	Vectorworks 2024	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	-	-
	GLOOBE 2025	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	-	-
	参考IFC	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
構造	Revit 2022	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	参考IFC	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
設備	Revit 2022	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	Rebro	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	-	-	-
	CADWe'll T-fas/Linx	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	-	-	-
	CADEWA Smart	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	-	-	-
	FILDER CEDD	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	-	-	-
	参考IFC	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	

https://blcj.or.jp/sample_form/

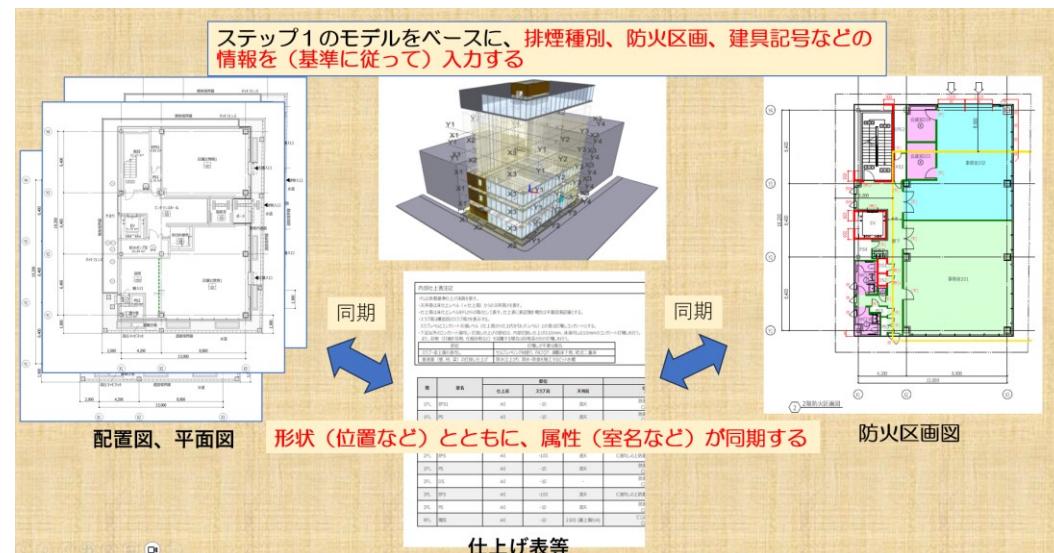
9. 設計者向けのBIM図面審査説明資料

- ・ 設計者を主たる対象として
BIM図面審査の講習動画（Youtube版、PPT版）を作成し、
BIMライブラリ技術研究組合のホームページで公開した。
- ・ 「BIM図面審査に関心を持っていただくこと」を主眼に、BIM図面審査に取り組むにあたってのヒントなど、実務に役立つ内容に重点をおいている。

【コンテンツ】

1. BIM図面審査の位置づけ、ねらい
2. BIM図面審査のコンセプト、基本的な仕組み
3. 設計者にとってのメリット
4. 「BIM図面審査」導入のヒント
5. 申告書作成のポイント
6. BIM設計の留意点など

【スライドの一部】



II. 「BIMデータ審査」の実施に向けた 環境整備の取組

1. 2025年度 作業フロー（案）

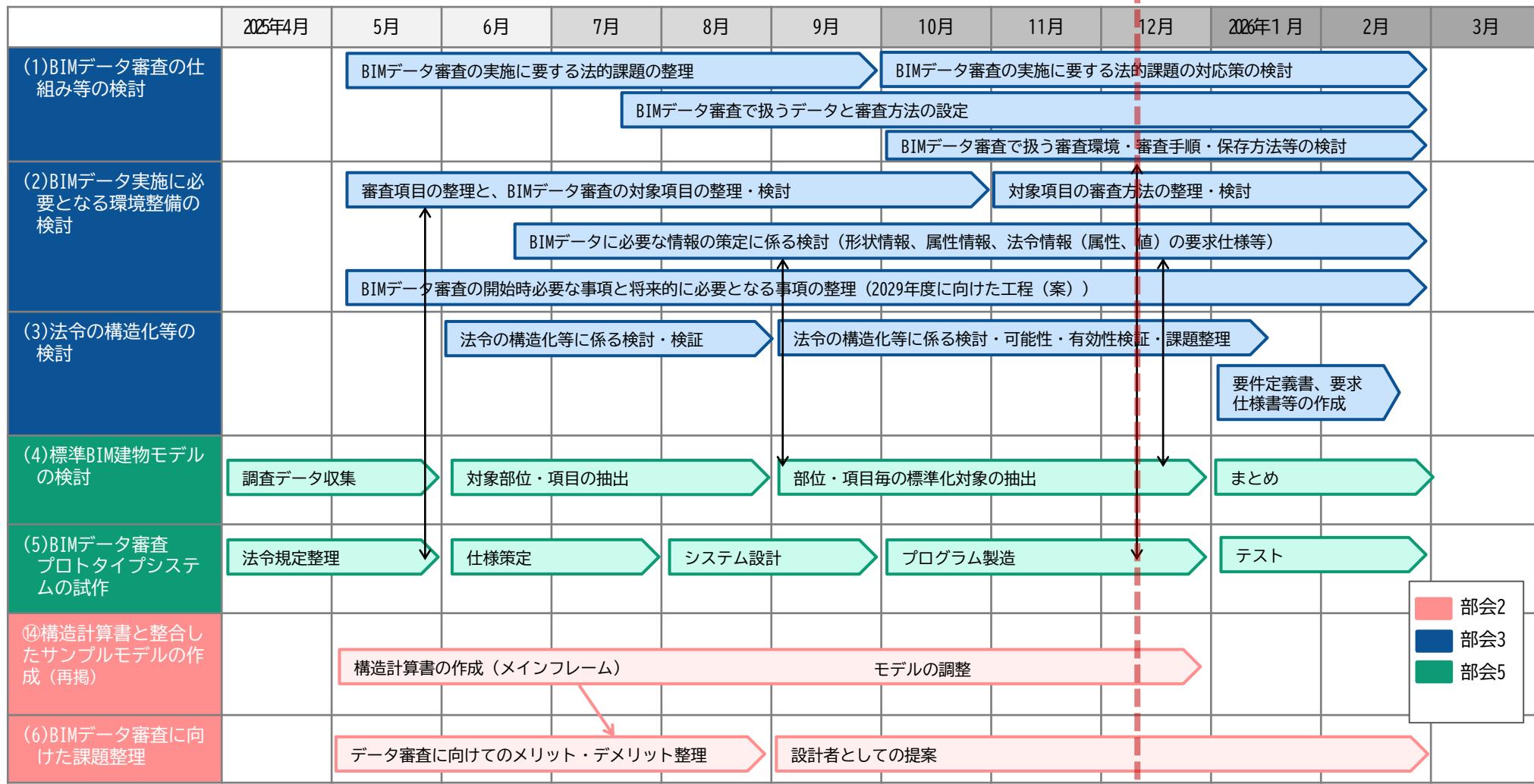
▼:環境整備部会

- 2029年春の制度開始に向け、個別の課題についての検討を主に部会単位で実施中である。（今回、具体的な報告はなし。）

▼ 10/29

▼ 12/10

▼ 3月初旬



年度の成果の
とりまとめ・
報告書作成